

ネギ黒腐菌核病はどんな病害??

- ・地上部：下位葉の黄化、程度がひどい場合は枯死。
- ・地下部：腐敗症状、発病部位には黒色のゴマ粒状の菌核が形成
- ・伝染源は発病株に形成された菌核（土壌中で生存）
- ・土壌pHが低い場合に、発病しやすい

秋田県における ネギ黒腐菌核病の発生の初確認

秋田県農業試験場

1



2

Akita Pref. Agricultural Experiment Station 秋田県農業試験場

黒腐菌核病の発生初確認となった経緯

- ・2022年5月に県中央部のネギほ場で、株の黄化・枯死が多発（写真1）
- ・黄化したネギの地際部は黒変。表面には多数の黒色の菌核（写真2）



写真1 現地ほ場の状況
(2022年5月31日撮影)
品種「坊主不知」
初夏どり（越冬春どり）ネギ
2021年9月定植



写真2 黄化したネギの地際部

ネギ黒腐菌核病が疑われたため、
調査を実施

3

結果

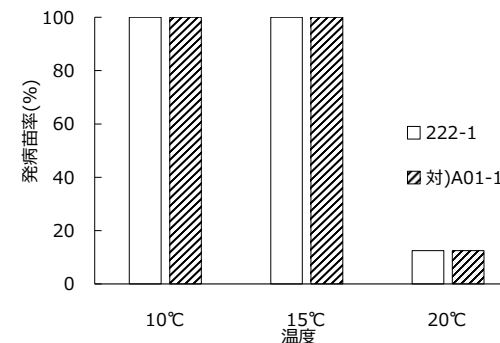
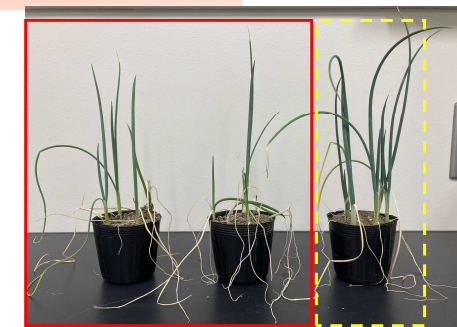


図 接種試験での発病状況



接種区 (222-1菌株) 無接種区

- ・無接種区で発病なし
- ・発病適温10°C~15°C
→A01-1株と一致
- ・発病部位から同一菌が再分離。



4

結果

処理区	タマネギ		ニンニク		シンテッポウユリ		トマト ¹⁾	
	有傷 ²⁾	無傷	有傷	無傷	有傷	無傷	有傷	無傷
222-1	+ 3)	+	+	+	-	-	-	-
222-2	+	+	+	+	-	-	-	-
222-3	+	+	+	+	-	-	-	-
対照) A01-1	+	+	+	+	-	-	-	-
無接種	-	-	-	-	-	-	-	-

- 1) 3品種が含まれる。
- 2) 有傷：植物体に白金耳で傷をつけて接種、無傷：傷をつけずに接種。
- 3) +：病原性あり、-：病原性なし

タマネギ、ニンニクで病原性があり、A01-1と一致



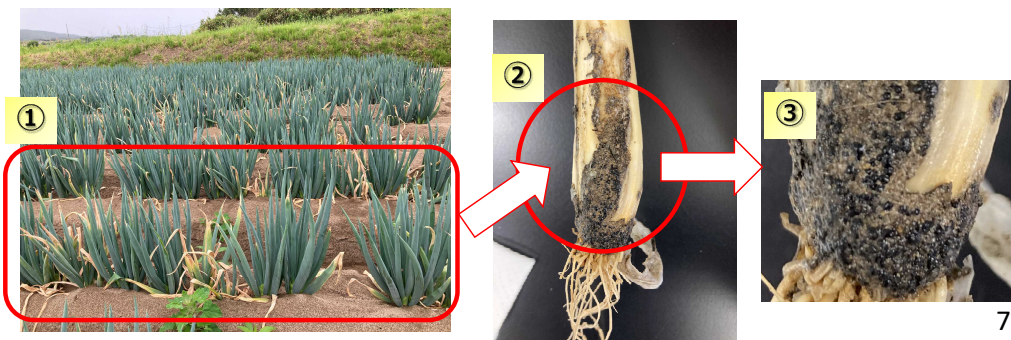
タマネギ ニンニク シンテッポウユリ 5

ネギ黒腐菌核病の発生状況と注意点

- ・発生確認ほ場：県内でごく一部
- ・発病適温10～15℃、低温で発生が多い
- 初夏どり(越冬春どり)は、低温の期間が長く、特に注意が必要

○黒腐菌核病を見分けるポイント（簡単です!!）

- ①ほ場で、株の黄化や枯死がある
- ②株を引き抜き、茎盤部（根元）が黒変している
- ③黒変部分に多数のゴマ粒状の菌核がある



まとめ

- ・試験1、2から、既報の黒腐菌核病菌の性質と一致
- ・遺伝子診断を行った結果、黒腐菌核病菌と同定



病害虫防除所から令和5年2月27日に特殊報が発行

防除対策

耕種的防除

- ・発病株がある場合、ほ場外へ処分
- ・他ほ場への分布拡大を防ぐため、作業機械等は十分に洗浄
- ・石灰資材による土壌pH調整
- ・連作、または黒腐菌核病にかかるタマネギ、ニンニク、ニラ等を作付けしない

薬剤防除

- ・発病が確認されたほ場では、以下の表を参考に薬剤防除

FRACコード	農薬名	使用時期	使用量又は希釈倍数	使用方法	散布液量	使用回数
7	パレード20フロアブル	育苗後半～定植当日	100倍	灌注	セル成型トレイ1箱 またはペーパーポット 1冊 ^{*1} 当り0.5L	1回
3	モンガリット粒剤	生育期 但し、14日前まで	6kg/10a	株元散布	—	3回以内
11	メジャーフロアブル	収穫前日まで	2,000倍	散布	100～300L/10a	3回以内
7	カナメフロアブル	収穫前日まで	4,000倍	株元散布	—	4回以内

*1 約30×60cm、使用土壌約1.5～4L